

様々なリスクコミュニケーションの事例

報告者：夏目智子

タイトル：輸入食品の安全性確保に関する意見交換会 ～食品に関するリスクコミュニケーション～	
目	的：情報提供（説明）・情報共有・相互理解や信頼感の醸成・合意形成
形式：	①媒体作成・HP や印刷物への掲示 ②facebook、twitter 等での情報発信（双方向性） ③講演会・説明会 ④出張講座・意見交換会（双方向性） ⑤個別対応 ⑥研修 ⑦その他 （ ）
日時（回数）：	平成 2 7 年 1 月 2 9 日
実 施 者：	行政・事業者（団体）・消費者（団体）・教育機関・その他（ ）
対 象 者：	行政・事業者（団体）・消費者（団体）・教育機関・その他（ ）
概要及び特徴 主催：厚生労働省 対象：行政・事業者（団体）・消費者（団体）・その他 開催目的：厚生労働省では、輸入食品の安全性確保のため、食品などの輸入の際に 国が行う監視指導について、毎年度「輸入食品監視指導計画」を定め、重点的、効 率的かつ効果的な監視指導に取り組んでおり、 今回の意見交換会は、『一緒に考え よう輸入食品の安全性』をテーマに、行政、食品関係事業者や消費者がそれぞれの 立場から講演を行うほか、これら関係者によるパネルディスカッション、参加者との 意見交換が行われた。 内容：情報提供とパネルディスカッション・会場参加者との意見交換 （１）情報提供①「輸入食品の安全性確保について」～平成 2 7 年度輸入食品監視 指導計画（案）について～ 厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課 ②検疫 所における輸入食品の安全性確保への取組 成田空港検疫所食品監視課 ③「企業 における品質保証の取組」 味の素冷凍食品株式会社品質保証センター ④「消費 者からみた輸入食品」 生活協同組合ユーコープ参加と連携推進本部 （２）パネルディスカッション・会場参加者との意見交換 コーディネーター：松 永和紀さん（一般社団法人 Food Communication Compass 代表） パネリスト：情 報提供者 4 名	

様々なリスクコミュニケーションの事例

報告者：夏目智子

タイトル：食と健康
目的：情報提供（説明）・情報共有・相互理解や信頼感の醸成・合意形成
形式：⑥研修（全国大会の分科会として開催）
日時（回数）：平成26年10月19日
実施者：消費者団体（全国地域婦人団体連絡協議会）
対象者：消費者団体（全国地域婦人団体連絡協議会会員ほか）約100名
概要及び特徴 （1）情報提供 ①「今考えよう私たちの身体」～震災前後の検針データから～（公財）福島県保健衛生協会 ②家庭で出来るメタボ解消の健康体操（公財）福島県保健衛生協会 ③県産農林水産物の安全・安心確保に向けた取り組み 福島県農林水産部農産物流通課 ①では福島県民の検針を受託している保険衛生協会から、震災前後の検針結果について報告があった。震災後は全体的に肥満度、中性脂肪、血糖値が上昇していた。これは原発事故で非難を余儀なくされた方々に顕著であった。外出の機会や野菜摂取が減り、外食が増えたことによるものと推察された。③県農林水産部からは、震災後の放射線被害による農産物の検査の方法や、安心して購入していただくためのPRの方法、風評被害払拭に向けた熱意ある取り組みなどの報告があった。 （2）意見交換 参加者からは放射線被害に対する県民調査についての質問や、福島県産農産物が安全であることをもっと分かりやすく消費者に示してほしいなどの意見が出された。 その他 参加者は情報提供を受け、全国の各地に戻ってからの活動に活かすことを目的に開催しているので、概ね目的は達成されているものと推察される。 参考 URL

